

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		GoodHouse大宮				公表日	2025年12月1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		利用されるお子様、プログラムの内容に合わせている。			
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		お子様の様子や状態に合わせて配置している。			
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		支援を行う部屋は必要最低限の掲示物にすることで視覚情報を減らし、集中しやすい環境設定を行っている。			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎朝の掃除に加えて、使用した教材を消毒する等、清潔な空間を保つことができるようしている。			
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		お子様の様子や状態によって、空き部屋や空きスペースを使用する等してクールダウンしたり、職員と話すことができる環境を整えている。			
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		職員会議等を通して、業務改善を進める為の目標設定の共有や業務の進め方について話し合っている。			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		年に1回アンケートを実施し、職員会議にて保護者様からいただいた意見を共有、改善策等を話し合う場を設け、業務改善に繋げられるよう話し合っている。			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎月職員会議を実施し、情報共有や意見交換を行っている。また、業務の合い間に気軽に話せる雰囲気作りに努めている。			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	第三者評価は行っていないが、年に1回自己評価結果を公表し、業務改善に努めている。			
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		様々な研修を通して、自己研鑽できるプログラムが組まれている。			
適切な	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		個別支援計画に沿ってプログラムを作成している。また、ニーズを踏まえた支援内容と5領域との関係性を明確にして公開する予定となっている。			
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		支援の中での対話や保護者様からご意見やニーズを伺いながら職員間で検討し、個別支援計画を作成している。			
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児発管を中心に職員で話し合い、全職員共通理解のもと、個別支援計画を作成している。			
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		個別ファイルに格納し、職員はいつでも確認することができるようしている。支援の前には、作成された個別支援計画の確認を行い、計画に沿った支援を行っている。			
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		統一された様式を用いて実施している。			
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、具体的な支援内容を設定している。			

支援の提供	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		お子様の情報共有や話し合いを行いながら適切なプログラムの立案を行っている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		職員間で情報共有を行い、記録を確認しながら、飽きることがないようプログラムを立てている。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		お子様の様子や状態・必要に応じて個別・集団支援の提案を行っている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		当日の支援内容を共有し、目標の確認や役割分担について支援に携わる指導員で打ち合わせを行っている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		申し送りの中で、情報共有や相談を実施している。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		記録を作成し、記録内容をもとにPDCAサイクルに基づいて、支援の検証を行っている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的にお子さまの様子を保護者の方と共有し、必要に応じて個別支援計画の見直しを行っている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6		個別支援計画と併せて確認しながら4つの基本活動に通ずる支援を提供している。	
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		お子様の気持ちや考えを必ず確認しながら支援を進めており、気持ちに寄り添うかたちで自己決定に繋げている。	
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。		6		今後参加していく予定となっている。
関係機関や保護者との連携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		6		今後参加していく予定となっている。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校行事等の情報共有を行い、送迎時の連絡調整を行っている。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		6		今後、関係機関との情報共有を行い、相互理解に努めていく。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		6		今後、学校や放デイを卒業する方がいらっしゃった場合は、必要に応じて移行先への情報提供を行っていく。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		必要に応じて療育センター等との連携も行うことができるようしている。また、区役所や保健センター等の行政機関と情報共有を行っている。	
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。		6		利用されていないお子様と関わる機会はほとんどない為、施設でのイベントへの誘いを今後行っていく予定となっている。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		6		現時点で参加の実績はないが、機会があれば参加する予定となっている。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		HUGでのご連絡や相談支援の際にお話を伺い、共通理解を持てるよう努めている。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6		今後、ペアトレ等の研修を検討している。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用者負担や支援プログラム等については見学時に、運営規定については契約時に保護者様へ説明している。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		個別支援計画作成の前にアセスメントを行い、保護者様の意向やお子様の気持ちを確認する機会を必ず設けている。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		書面を提示しながら説明を行い、保護者様の同意のご署名をいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		面談の希望をお伺いし、実施している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6			今後、保護者様にご参加いただけるイベントを検討している。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情解決対応フローチャートに沿って、解決に向けて迅速に行動し、管理者が対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		行事予定等の連絡事項はHUGを活用して発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報が記載されたものはキャビネットで保管している。また、情報発信の際は確認を行い、十分留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		お子様や保護者様と意思の疎通を図る為に、視覚提示を行う等、伝え方に配慮したり、分かりやすい言葉でお伝えする等の工夫を取り入れて対応している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6			今後、外部の関係機関の方の訪問は積極的に受け入れていくことを検討している。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		掲示にて共有し、定期的に訓練を実施している。	
非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		業務継続計画を策定し、職員間で共有している。また、定期的に避難訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時にアレルギーや服薬等を確認し、職員で共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		契約時にアレルギー調査を行い、同意書を記入していただいている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し、計画に沿った研修や訓練を定期的に行い、安全管理の徹底を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		掲示にていつでもご確認いただけるよう設置している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハット報告書の作成を行い、情報共有した上で、会議にて再発防止の検討を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止研修を全職員が定期的に受講している。また、年に2回虐待防止チェックリストを実施し、虐待防止に関する意識を高めている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		虐待防止研修と共に身体拘束適正化研修を全職員が受講している。また、身体拘束が予測される場合は、事前に個別支援計画に記載し、了承を得た上で支援を行っている。	